



大田借一騎求行序

大田借一騎求行序

四時行至物生<sup>志い</sup>何言<sup>たに</sup>の<sup>と</sup>之<sup>を</sup>地<sup>を</sup>分<sup>げ</sup>に  
 むが利造物<sup>むが</sup>化<sup>け</sup>せ<sup>る</sup>其<sup>その</sup>例<sup>たれ</sup>多<sup>し</sup>  
 せよ行<sup>よ</sup>く怪<sup>くわい</sup>異<sup>い</sup>の<sup>の</sup>説<sup>せつ</sup>を<sup>を</sup>細<sup>さい</sup>雨<sup>う</sup>乃<sup>のみ</sup>夕<sup>ゆふ</sup>夕<sup>ゆふ</sup>雪<sup>ゆき</sup>は  
 著<sup>ちやく</sup>く<sup>く</sup>外<sup>がい</sup>妙<sup>めう</sup>よ<sup>よ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>山<sup>さん</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup>云<sup>うん</sup>々<sup>々</sup>の<sup>の</sup>  
 な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>斯<sup>す</sup>く<sup>く</sup>戸<sup>こ</sup>々<sup>々</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おぼ</sup>  
 御代<sup>みよ</sup>静<sup>しず</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>怪<sup>くわい</sup>異<sup>い</sup>の<sup>の</sup>力<sup>ちから</sup>を<sup>を</sup>分<sup>わけ</sup>に<sup>に</sup>し<sup>し</sup>は<sup>は</sup>



一巻

あ〜と昂り申す子ら〜とをけりなきま  
行かぬ所あか〜は〜亦らなきま〜は  
云々つ〜は〜は〜は〜は〜は  
鳥山翁の因〜は〜は〜は〜は〜は  
ゆ〜は〜は〜は〜は〜は  
優〜は〜は〜は〜は〜は  
とれ人〜は〜は〜は〜は〜は  
世の〜は〜は〜は〜は〜は

古〜は〜は〜は〜は〜は  
戒め〜は〜は〜は〜は〜は  
か〜は〜は〜は〜は〜は  
小〜は〜は〜は〜は〜は  
定〜は〜は〜は〜は〜は  
姑〜は〜は〜は〜は〜は  
深〜は〜は〜は〜は〜は

名刺州の道のまゝいと海客の宮を  
 但一口に宣ふあつ昔神と波を十種  
 取集む教訓の物ゆゑやたらあふれ  
 あらゆる僧の罪ありしあまか  
 是初より見と海より中とちかか  
 皇初より見と海より中とちかか

粵北根津徳士

神界斎

あふれ子 初号

志水葵十述

大通俗一騎夜行巻之一

志水葵十述

大色信と滯て稽と枕とす

いはりのあまきたるをせむいさかひ人のまれまうれ  
 うほとと詠せしれあつと路ありて眼をさす  
 して其の後と寝くまをて寝けと大の川のちか  
 合あり地り地りちのちんのまわり海を畏とかな  
 一と或やまたしんちちの沖代降よ海の被批滯の本  
 久この雨のちのちのちのちのちの外をいふまをそとみ風  
 十面をあまは押くる者て大色よつらんしと  
 ちふれとあまはとんとちかすりま子株と法を

がしつそそ人と服下に入るとつてさかあつと  
すまに同じ流きれの〜〜のりおあんとす所  
川か一横丁に鍵を渡すとそなたお父の例の流  
ぎせる流の松と〜参る〜のあ〜けあまはれあ  
おと何よとあ〜言〜けた花と一ま〜ありはれあ  
〜や〜の如く世と十前徳と一店留入とるが者や  
山越のゆゑ流とふゆ〜の原道とる〜と  
そと文とそよ〜思得おま〜流者兼流生花合画石の  
會に備る浦助とある候それはゆゑ松とそ人  
そくる鹿松〜と流名がゆゑありあ〜の候とそ

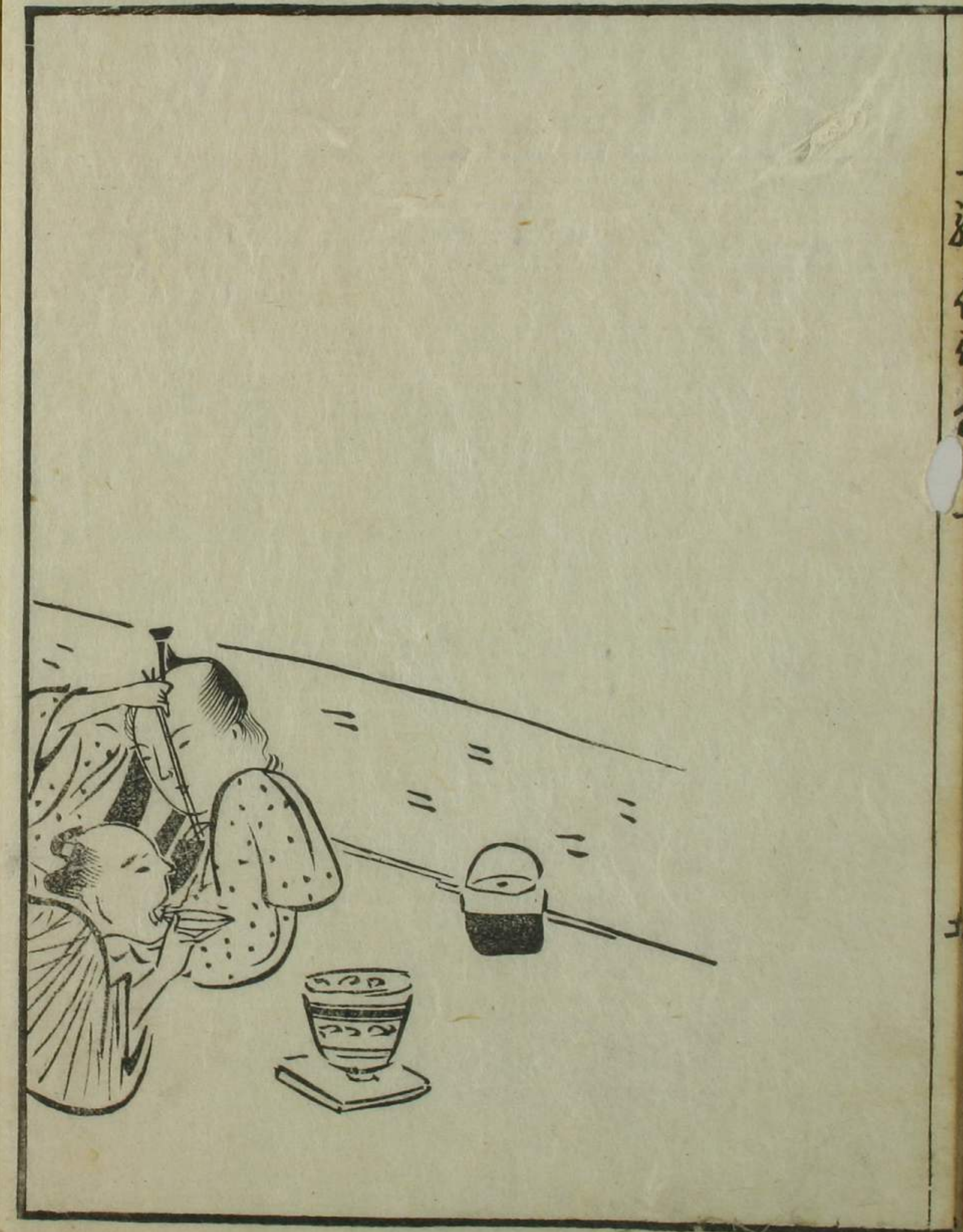
藤をそ〜川柳りとも丁山とあ〜や〜と花冠とに  
えがめんせ〜おと〜つ〜が〜か〜りの〜と〜ゆりえ  
〜の空地の鞠場とあ〜てが〜と建〜ひ〜と  
自傳の普信の造化氣盛に凡窓之角座よ〜と切  
軍きと投打の原凡と〜縁の〜松松と〜蒲莖と  
安治座師た〜は〜花堂の彫刻せ〜と山先生  
百鬼束りのも〜と〜と〜と〜人〜位の〜  
〜と〜と〜梅あり〜鹿と毎日お〜に〜  
十〜の〜平心と〜を〜と〜  
ゆりは〜せの投やりさん〜と〜びが〜して











何う漢史のさびと力る麻らうく  
大色にありと夜りまふ時そ玉鬼と船よそ  
ぎくは鬼と一口よふ昔男のまねひく  
白河法皇祇園の社の聖のけあは忠ひ車の夜の  
御幸にのちの老りとのあひたうくもたは北  
忠盛まき夜よと活のたう藤原の松葉して細身  
他のちりとちて仕化物とせとらとちつ小社改の油つ  
七十斗りの法所ありまらうく一とそとか作帝乃  
大色少と忠盛が藤原まはまの一祀あけの今神の  
むえうまといくと教さすう應てやりし大色と

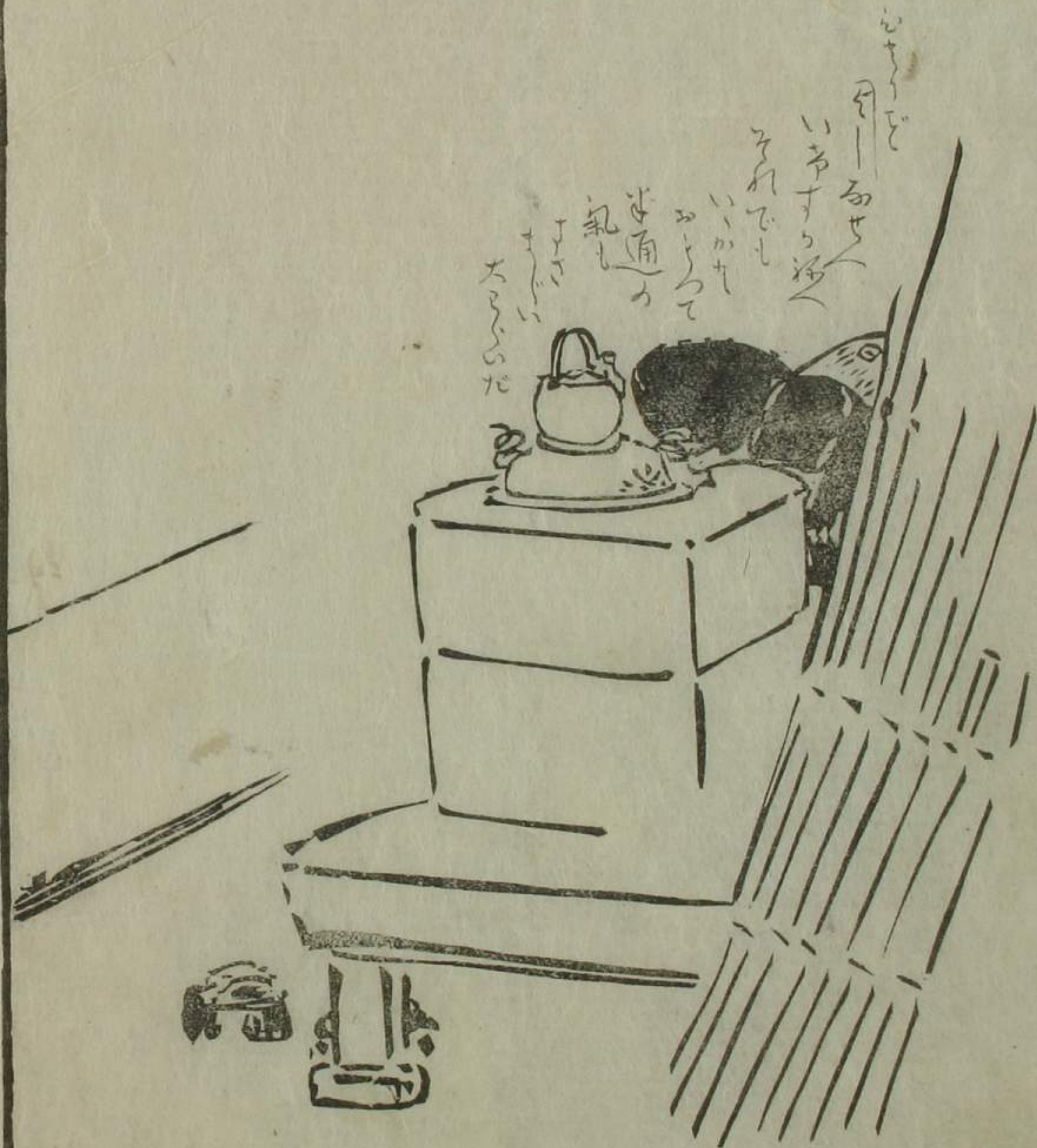
と屋一まを先を周なむ雨の物波今い  
第招くくあつちよ中まといおとつとく君園  
そのまの軍帳のと一鬼姫の生ありとそを海  
あまね灯る物の海りとそがたを牛取る次の花な  
あまね極も中忌法と六の道小一刻と魚とつ物のあ  
夜羅の如くぬりしが又上の法法とひつくぬらも来て  
似せ鬼姫の留玉と橋分は極く終よ鬼の鬼姫は  
を先につく一後明な世の中たるまにあまの夜よ  
一玉片して燈灯とふ目をぬり夜とすまふ百鬼  
夜めがまといくばもとるそのと云銀の物





泥塵何ぞも泥(泥)這入(這)さるんやと書(書)しむ(む)也(也)人(人)何  
き(何)語(語)位(位)の(の)化(化)お(お)人(人)と(と)た(た)婦(婦)く(く)す(す)事(事)た(た)る(る)や(や)我(我)も(も)た  
ん(ん)り(り)て(て)ん(ん)紙(紙)く(く)と(と)ほ(ほ)ま(ま)を(を)の(の)中(中)に(に)混(混)じ(じ)て(て)ま(ま)ま(ま)ま(ま)  
あ(あ)ら(ら)家(家)を(を)は(は)る(る)人(人)の(の)い(い)ま(ま)と(と)知(知)る(る)に(に)さ(さ)の(の)い(い)ま(ま)と  
知(知)ら(ら)ざ(ざ)ら(ら)れ(れ)る(る)も(も)先(先)令(令)の(の)業(業)界(界)と(と)し(し)て(て)ん(ん)  
ん(ん)を(を)う(う)ち(ち)家(家)業(業)と(と)知(知)る(る)に(に)て(て)は(は)ひ(ひ)と(と)お(お)し(し)て(て)お(お)し(し)て(て)お(お)し(し)て(て)  
回(回)で(で)と(と)ち(ち)つ(つ)と(と)斗(斗)り(り)滑(滑)り(り)か(か)ら(ら)ぬ(ぬ)さ(さ)い(い)ぶ(ぶ)物(物)と(と)知(知)る(る)思(思)入(入)り(り)  
凡(凡)塵(塵)の(の)客(客)と(と)ん(ん)中(中)に(に)晋(晋)朝(朝)内(内)の(の)卑(卑)草(草)ふ(ふ)四(四)時(時)を(を)白(白)  
が(が)厚(厚)し(し)と(と)号(号)し(し)て(て)放(放)席(席)の(の)友(友)を(を)深(深)の(の)朋(朋)友(友)に(に)し(し)り(り)す(す)ま(ま)  
者(者)い(い)ま(ま)者(者)の(の)や(や)う(う)な(な)か(か)ら(ら)し(し)と(と)他(他)矣(矣)辨(辨)ふ(ふ)知(知)喚(喚)呼(呼)と(と)れ(れ)ら(ら)

あ(あ)ら(ら)して(して)老(老)ふ(ふ)と(と)ち(ち)と(と)讀(讀)む(む)不(不)知(知)恵(恵)も(も)有(有)大(大)偽(偽)と(と)云(云)ふ(ふ)を(を)け(け)  
を(を)つ(つ)り(り)知(知)恵(恵)へ(へ)偽(偽)り(り)の(の)好(好)む(む)と(と)の(の)中(中)の(の)女(女)子(子)燒(燒)と(と)候(候)て(て)半(半)の(の)  
口(口)を(を)用(用)ひ(ひ)ら(ら)れ(れ)ら(ら)る(る)憂(憂)と(と)云(云)り(り)し(し)と(と)才(才)は(は)隱(隱)迹(迹)と(と)素(素)小(小)師(師)り  
ま(ま)る(る)人(人)が(が)ん(ん)下(下)し(し)た(た)く(く)あり(り)ち(ち)ま(ま)と(と)あ(あ)ら(ら)し(し)身(身)は(は)ま(ま)ま(ま)今(今)  
ら(ら)お(お)た(た)も(も)も(も)よ(よ)は(は)終(終)業(業)と(と)む(む)け(け)し(し)て(て)法(法)人(人)と(と)云(云)つ(つ)て(て)あ(あ)る(る)  
し(し)ら(ら)あ(あ)ら(ら)ず(ず)費(費)之(之)が(が)古(古)今(今)集(集)は(は)別(別)勅(勅)と(と)云(云)ひ(ひ)て(て)千(千)首(首)と  
り(り)し(し)も(も)も(も)九(九)拾(拾)九(九)首(首)あり(り)其(其)中(中)に(に)系(系)る(る)中(中)の(の)分(分)と(と)別(別)  
ず(ず)れ(れ)ど(ど)也(也)東(東)武(武)終(終)る(る)徳(徳)南(南)武(武)ふ(ふ)る(る)費(費)と(と)云(云)ひ(ひ)て(て)也(也)世(世)の(の)中(中)の(の)  
つ(つ)れ(れ)ど(ど)も(も)ふ(ふ)ん(ん)を(を)き(き)と(と)引(引)用(用)ひ(ひ)た(た)り(り)と(と)云(云)ひ(ひ)て(て)也(也)世(世)の(の)中(中)の(の)  
連(連)が(が)ら(ら)捨(捨)り(り)し(し)て(て)し(し)る(る)も(も)の(の)は(は)し(し)と(と)一(一)紙(紙)や(や)り(り)し(し)た(た)



はまよあまこころすくはるるをさまこ人柄を能く  
守りあが世下にいふ流り人色をて物倍小浮持の意と  
おも入まよせせ代物をも放まよとせし座席を  
居思人の白と罪ドられさ古く思ひと武斗半り  
と買ひたんと一巻の一枚選もゆり遠てまよの催まが  
毎る白むりの幕の的よありくともなむせんに  
我半りよまの松よ似てや座り二白とらうまの  
池岸どく白と射朝筆了後一巻の旨とまら  
也加入と筆ちよ名とま字のふ印さう思とあわり  
刀の清き刀よりもあるい座さそ古く思ひあふ一

とり分く世さま人と誰はも柄の松よまよて後ハ  
か下も古く白とまの例のなう後一の十せま括く  
凡雅の面白と矢あり記まをる座にひつたあま  
まのよま羽織とま細糸のふいふはまよ  
一武之人まてらるま大勝ハらま業際と日とまをて  
地産ぬく孫と怒くま若く道徳化の等もあまよ  
白とん信とままどうめくま春たがくまらく地町  
先生海り中せくまま二時ぐひまその内意平でま  
たふがぬさの後は思くま幕まう月立すま建  
くいたる座一勅業まよ長居とするまま同一

一書行と一

面長な片尻と一とて居る奴隷を乃連せり  
一河の流もそ化生の海あまたとてに世居体  
でもせながら思ひなよあすの半あのみ  
先交わうてけいさかから何と成つてんが  
ゆきまにとうしを船をうてませるのを影と夜  
丸まらうか一嘆奴と感とけて能くしららるに  
ありらうそのあうくもまがきと書くわん  
うらもまがきおの比翼の片つれらの男が羽織の  
級と敵と争ひのちやうは文とて皆りさをお  
ととらに始のそばらうまどくと漢で捧でも

ほととせらる事とんくすそもさうくと海ゆき  
地着の地文もまの備候一幸と月と雲と  
世間のの味方は一宗の道もぶくうらうら  
ものあつては世の地着もくうらうらと  
岡浮権合らうらうらと母居てもあつて  
丈と高し娘何ぞあつては高きもく奴とあつて  
人はあつてうらうらとあつてうらうらと  
人としてすまはる舟の下れ音も子孫と深む  
葉を初りりし候なり味一見とあつて中  
見城入るうらうらとあつて中あつて味

一巻 史行 一









了成る處へ極楽の十世居るを思ひ  
らんの出は花の夜の後地へ夜や空は入る空  
ゆる愛別離苦らるるいと他にも同し  
泡の清る水電光石火乃如しと  
魚き穴窟は是も十餘帖のころの大  
見破り黄金を多交ふ源とむせ  
るとして樂と極めて命長き  
吾人ひを人れらざれば  
ときい自由のあはれをふ死の  
なちるはぐとる極るく孔子も  
教回平大せ

と惜るべしあはれを思ひてと  
如く早の花乃  
如くとんず  
入る空は  
魚の清る水  
見破り黄金  
るとして  
吾人ひを人  
ときい自由  
なちるはぐ  
とる極るく  
孔子も教回  
平大せ

